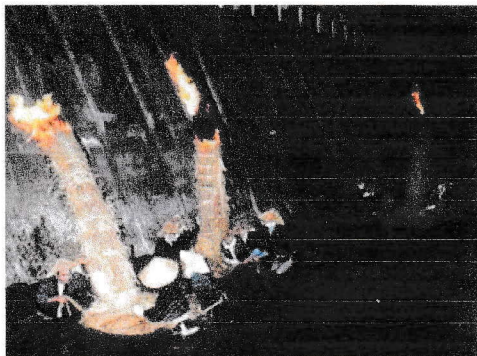


大川原の火流し 「青森県教育庁文化財保護課ホームページより」



県無形民俗文化財

大川原の火流し



写真提供 黒石市教育委員会

指定区分	県無形民俗文化財
名称	おおかわらのひながし 大川原の火流し
所在地	黒石市大川原
保護団体	大川原火流し保存会
指定年月日	昭和58年1月20日
公開状況	8月16日に集落の中野川で公開
問合せ先	黒石市教育委員会文化スポーツ課 TEL0172-52-2111

毎年盆の8月16日夕方に、集落の中野川で行う。

集落の若者たちが、川原で各家から集めたカヤとワラを編んで、長さ3m、幅1.5mほどの舟を3隻作り、これをワセ・ナカ・オクテと稲作の3種になぞらえる。

夕方に舟の真中に立てた2mほどのカヤの帆柱に火をつけ、舟子と呼ぶ若者たち数名ずつが3隻のワラ舟を川に押し出し、500mほど下流の大川原橋まで流し下す。川岸では笛・太鼓・手平鉦ではやしつづける。舟子たちが押し流す舟の火が橋をくぐるまで消えないと、翌年の稲作は豊作だと占うのである。

黒石市内から東へ10km離れた山間の集落に残る盆の精霊送りの古いしきたりである。南北朝時代の落武者がここに隠れ住み、戦乱の死者の慰霊から始まったともいうが、その根拠は乏しい。近年から夏の黒石よされ祭の中で観光客を呼ぶ行事となった。